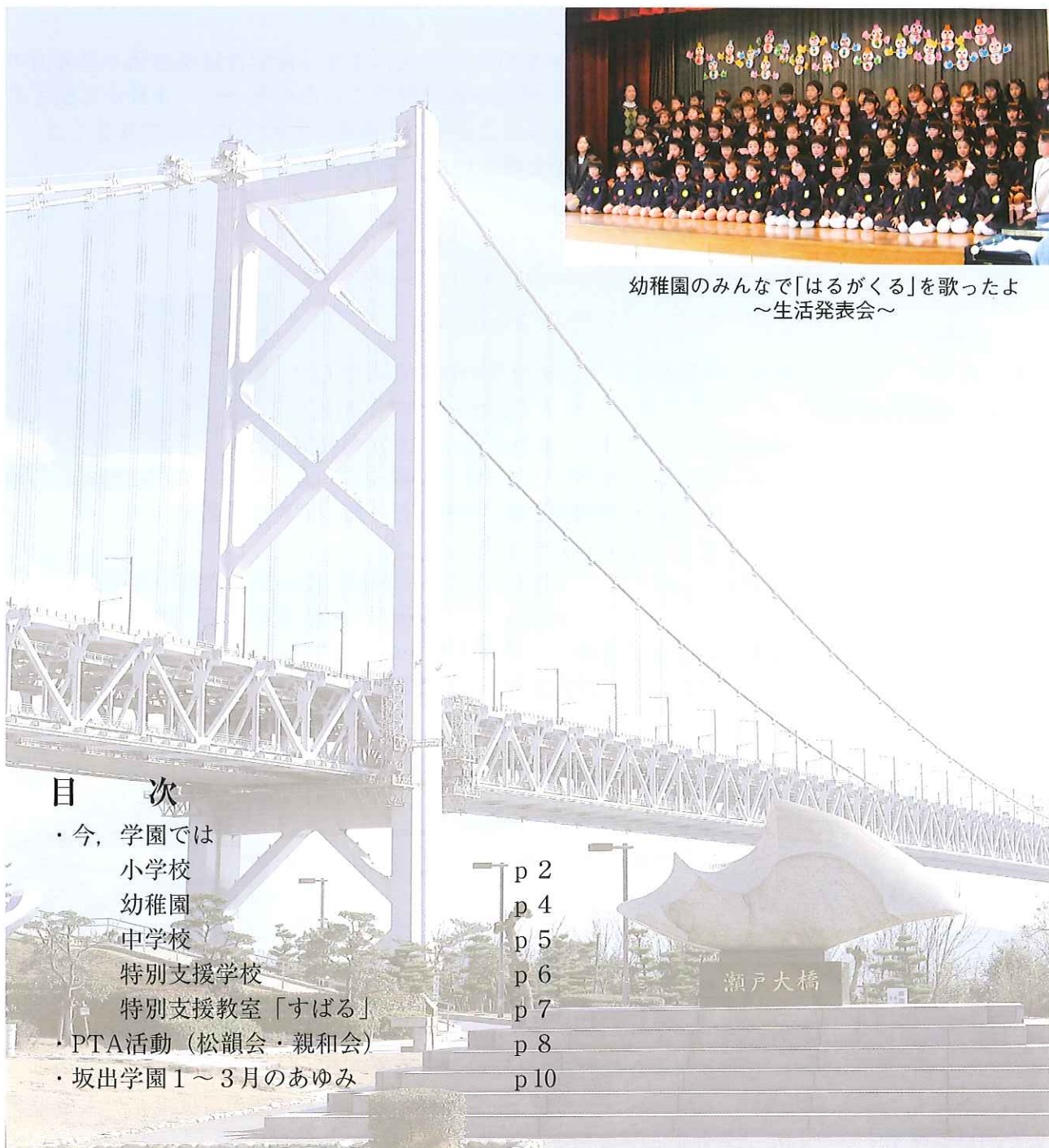


香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第32号

2009.3



幼稚園のみんなで「はるがくる」を歌ったよ  
～生活発表会～

## 目次

- ・今、学園では
- 小学校 p 2
- 幼稚園 p 4
- 中学校 p 5
- 特別支援学校 p 6
- 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8
- ・坂出学園1～3月のあゆみ p 10

# 「思考力」をはぐくむ学びの創造(3年次)

## —脳神経科学研究との連携から新しい時代の学びにせまる—

1月29日(木)、30日(金)の両日、第92回教育研究発表会を開催いたしました。初めての1月開催ということで、さまざまな不安を抱えたままの開催でしたが、県内外より1100名を越える方にご参会いただき、盛会裏に終えることができました。

本年度は、子どもの「思考力」をはぐくむために、「思考様式(=思考に関する手続き的な知識)を習得・活用する授業づくり」「脳の活性化を図る附坂小型時程の確立とドリル教材の開発」という2つの視点から、研究授業や協議会等を通して提案いたしました。

また、2日目午後には、梶田叡一先生(兵庫教育大学学長)より「新学習指導要領と思考力の育成」という演題でご講演をいただき、本校の研究を価値付けていただきつつ、4月から始まる移行期間に向けて、私たちが取り組まねばならないことのご示唆をいただくことができました。

以下に、一部ではありますが、研究会の様子を紹介いたします。

### 思考様式を習得・活用する授業づくり

#### 1年生活科 むかしあそびのたのしさをつたえよう

本実践では、「縦割り清掃やお年寄りとの交流会等の経験から学んだことや、国語科で学習した『相手に分かりやすく話す』という考え方をを用いて、幼稚園児との交流活動をする際、相手に合ったかかわり方を工夫する力」の育成をめざしました。上級生やお年寄りとの交流から、「相手の気持ちを考える」かかわり方を思考様式として習得し、幼稚園児に昔遊びの楽しさを伝える際に、その思考様式を活用して、かかわり方を工夫しました。



本時の導入では、次の交流会に向けて、前回困ったことを解決したいという願いを確認しました。そして、一つの困った場面をロールプレイで再現しながら、解決策を全員で考えていきました。その解決策が相手の気持ちを考えたものであるかどうかを、「にこにこくん・困ったくんカード」を使って、モニタリングしました。思考様式が活用されずに困ったくんのままの解決策は、もう一度ロールプレイを行って修正し、相手の気持ちを考えた解決策に高めていきました。

#### 4年理科 あたたくくなあれ!—熱はどうやって伝わるの?—

本単元では、「水や空気は『熱せられた部分が移動して熱が伝わる』と捉える力」育成のために、「温度の違う部分の動きから考える」という思考様式の習得、活用を図りました。

本時、子どもたちは、空気のあたたまり方を水のあたたまり方と比較して、「全体が動きながらあたたまる」と予想しました。そして、「温度の高い部分」「温度の低い部分」それぞれの動きを確かめる必要があることも考えました。

「あたためるとやっぱり上に上がっていくよ。」「冷やしてやると、ずっと下に下がっていくよ。」「水と同じで、温度によって動きが違うんだ。」空気の温度の違いと、動きとの関係を実験によって明らかにした子どもたちは、その結果を根拠にして全体のあたたまり方を再度考え、大型モデルで、自信度がアップした予想の正しさを検証していきました。



体育館での全体授業

4年国語科 歩み寄る2人の気持ちを読み取ろうー新美南吉3作品の<重ね読み>を通してー

本単元では「人物像を読む力」という「思考力」育成のために、「言動の変化に着目する」という思考様式の習得・活用を図りました。

本時、子どもたちは「ごんぎつね」の最終場面での兵十の言動に着目し、「ごんぎつねめ」から「ごん」への呼称の変化や、「火なわじゅうをばたりと」という行動の変化から兵十の人物像に迫っていきました。

さらに、最後の一文「青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました。」に目を付け、思考様式に基づいて「『会話がない』ことから、もっと心が重くなったことが分かる。」と考える子どもも現れました。子どもたちは、過ちを犯しながらも分かり合おうとする兵十とごんに共感しながら、2人のやさしさを読み取っていきました。



附坂小型時程編成の確立とドリル教材の開発

▶附坂小型時程編成の確立

私たちは、従来、「教科内容の補充」と捉えがちだったドリル学習の目的を、「脳を活性化して、『思考力』を育成する授業の準備」と捉え、附坂小型時程を提案してきました。本年度の検証では、「子どもは、4校時前に2回目のドリル学習を行うことで、脳の活性を低下させることなく1日の授業に臨むことができる」ことが明らかとなり、研究会において報告することができました。



▶教科のドリル教材の開発

川島隆太先生(東北大学加齢医学研究所)から頂いたアドバイスを基に、「手が止まらない程度の難易度」等の「脳を活性化させる教材の要件」を見出し、計算・音読以外にも、教科毎のドリル教材を具現化しました。本研究会では、これら教材を用いて、教科の授業と関連付けたドリル学習の実践を行いました。



講演 「新学習指導要領と思考力の育成」

兵庫教育大学 学長 梶田勲一先生

「学習指導要領が新しくなります。これは、新しいことをやろうとしているのではなく、これまで先輩方が行ってきた伝統ある教育を、もう一度振り返ろうということです。教育のプロとして、目の前にいる子ども達に確かな力を付けることが教師の使命です。」と、教育のプロである教師が大切にしなければいけない心構えを、体験談を交えながら熱心に語っていただきました。



また、授業の中で教師の働きかけはどうあるべきか、思考力をはぐくむためには言語の力をどのように身に付けていくべきか、思考力と生きる力にはどのような関係があるか等、新学習指導要領と思考力の育成について、改訂に携わった立場から、お話ししていただきました。

講演の中で頂いたたくさんのご示唆を、今後の実践及び研究に生かして参りたいと思います。

# 一人ひとりが輝いた生活発表会

毎年、子どもたちの一年の育ちを発表する場として、生活発表会を行っています。劇や歌や合奏を披露することだけを目的とするのではなく、文字のごとく“生活を発表する会”という行事であり、幼稚園の中で、子どもたちがどのように生活してきているのかを、保護者の方に感じていただけるような発表会にすることを大切にしています。各クラスの様子を紹介します。

## 黄組

これまで思い思いの遊びの中で、いろいろなキャラクターに変身したり、イメージを膨らませて、なりきってごっこ遊びをしたりするを楽しんできました。そこで、劇の中で自分たちがしたいキャラクター（役）になることで、クラスみんなで一つのストーリーを展開していくという活動も楽しむことができるのではないかと考えました。また、ストーリーも、冬休みの楽しかった思い出話をしていた時、温泉に行ったという話が盛り上がっていく様子に大きな魅力を感じ、そのまま劇遊びへとつなげていくことにしました。子どもたちの生活をそのまま大切にすることで、3歳児でも、自然と台詞を思いついたり、どんなポーズにしようかと相談し合ったりする姿があり、そういった心の高まりが、生き生きとした劇遊びになっていったと感じています。



## 赤組



普段の生活の中で、誕生日を迎えて、背が伸びて、自分が大きくなったことが嬉しいあまりに、友だちに「まだ4歳やけんできんのや」「背が低いから無理」と、言っている姿が気になっていました。そこで、体の小さなネズミが大きなライオンを助けるという話をもとに、それぞれの思いを考えたり、よさに目を向けたりしながら劇を作っていました。子どもたちは、劇を通して自分たちを客観視できたようで、発表会以降、そういった言葉で友だちの心を傷つけるといったトラブルがなくなりました。また、入園・進級当初は、新しい環境や友だち関係に、緊張や不安を感じていた子どもたちが、今は、安心感をもって、のびのびと幼稚園生活を楽しんでいます。また、友だち関係が深まり、困っていたらお互い助け合おうとできるようになってきており、そういった姿や雰囲気も、演技全体を通して、伝えることができたように思います。

## 青組

年長児らしく、テーマをもって取り組みました。これまで一緒に過ごしてきた友だちを、“嬉しい存在”と感じている子どもたち。そこで、『友だち』というテーマのもと、劇や歌、合奏、朗読を通して、さらに『友だち』を深く見つめてほしいと思いました。すると、子どもたちは、『桃太郎』の鬼や『ブレーメンの音楽隊』の泥棒に対し、「本当は心の中では『人間と仲良くしたい』『友だちがほしい』という思いがあったと思う」「最後は仲間に入れてあげよう」と、内面の思いを探ろうとしていきました。鬼や泥棒は、物語の中では悪者だけれども、それらを演じる友だちは優しく大切な友だちであり、物語の中に自分たちの人間関係を広げていったのだと思います。また、朗読『大きくなるっていうことは』の中で、「なんでもかんでも泣かなくなった」「小さな子に優しくできるようになった」…と、一人ひとりが自分の成長を発表していたのですが、「ありがとう」という言葉をつけて言うようになりました。今の自分は、家族、先生、そして友だちに支えられてきたことを感じていたのです。そんな子どもたちの姿に、本当に“大きくなったな”と感じました。



# 主体的に学び続ける集団の育成

- 「つなげる」「広げる」「深める」交流活動を核として -

## ～新しい研究のスタート～

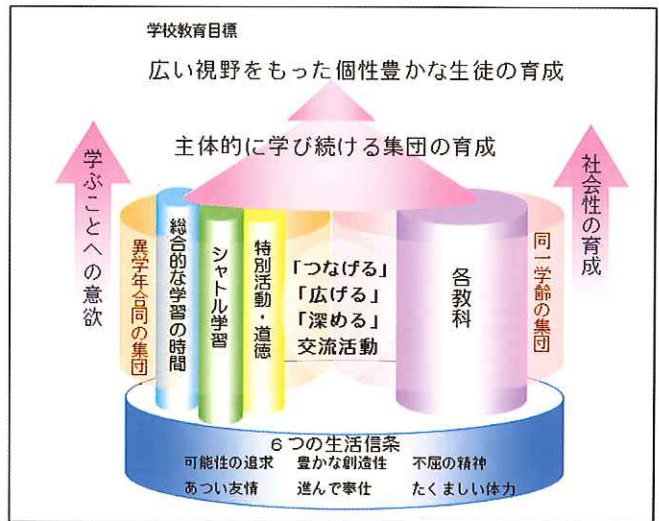
昨年6月の研究大会を終え、中学校では新たな研究をスタートしました。新しい学習指導要領も示され、「生きる力」の重要性が改めて確認された今、子どもたちに求められる主体的に学び続ける力とは…。

今年度まで、文部科学省研究開発指定として取り組んできたシャトル学習。そこでは異学年の生徒が交流することを通して、視野が広がったり、思考が深まったりすることが明らかになりました。

このことを手がかりとして、また本来の学校教育の意義である「子どもたちがお互いを認め合い、ともに学ぶ中で成長していくこと」に立ち返り、「交流活動」を核とした研究に取り組んでいます。

「教科学習」では、学級の仲間との交流。「シャトル学習」「総合的な学習の時間」では異学年の仲間との交流。そして「運動会」などの学校行事では、幼・小・中・特の学園全体の仲間との交流を通して、ともに学び、高め合うことのできる集団づくりを目指しています。

そして、この実践を通して、今求められている「思考力・判断力・表現力」を養い、「広い視野をもった個性豊かな生徒の育成」を実現するために、研究授業を行い実践を重ねているところです。



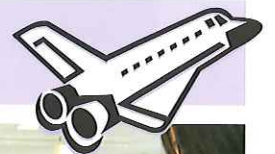
研究の全体イメージ図



授業での交流活動の様子

## 「シャトル学習」

文部科学省研究開発指定（18年度～20年度）



平成18年度より研究を続けてきた異学年合同の発展的な学習「シャトル学習」。これまでの研究成果や課題について、第5回研究開発学校フォーラム（2月17日：東京にて）で発表しました。発表のポスターセッションでも、全国各地から集まった先生方から、運営方法や実践で見られた効果について質問をいただきました。新たな学校教育制度の提案として、本校の取り組みを全国へと発することができました。学びの場と視野を広げるシャトル学習は次年度以降も継続していきます。



国語科シャトル学習の様子

なお、3年間の取り組みを『学びの拡充をめざす異学年合同学習～個の伸長を促すシャトル学習の実践～』と題して本にまとめ、3月初旬に黎明書房より刊行いたしました。本校の研究内容、仲間とともにどんどん伸び続ける生徒の姿を、多くの方々に知っていただければ幸いです。

## 第3回 公開授業研究会で授業力アップを図る！

2月7日(土曜日)

土曜日の開催にもかかわらず、小学校、中学校、養護学校、大学などから、合わせて120名ほどの先生方が参加してくださいました。まったくの自主的な参加ということで、特別支援教育に対する先生方の関心の高さ、指導に対する熱意がひしひしと感じられた研究会となりました。「1回目の授業後に討議し、改善案に基づいて2回目の授業に取り組む真摯な姿勢に学びたい」という感想をいただいて、身の引き締まる思いでした。

### 小学部

### 中学部

### 高等部

#### 授業説明 → 授業参観

#### 生活単元学習

～GO! GO! 遊園地!!～

楽しい遊園地への校外学習。「遊ぶコースを決めよう!」をめぐりに、グループごとに行きたいところを考えました。遊びの写真やビデオの情報をもとに児童が主体となって、遊びを選び、順番を決めました。

#### パワーアップタイム

～見て! 聞いて!

わたしの提案Ⅲ～

お祝い会の計画をすすめるなかでやりとりの力を身に付け願いを実現する学習を展開しました。改善授業の成果! 生徒自ら、また生徒同士で考えて活動する姿が多く見られました。

#### 暮らし

～ヘルパーさんと家事をしよう～

宿泊訓練等の各部屋を、一軒の家のようなイメージで設定しての授業。掃除、洗濯、ごみの分別など、家庭生活に必要な技能の習得と、援助者に必要な支援を伝えることをねらいとして取り組みました。

#### 改善点に対する 熱心な授業討議



#### 香川大学 武藏博文先生の講演

～自律生活に向けての  
授業づくり～

具体的で分かりやすく、明日からの実践に活用できるお話でした。

参加者の感想より



貴重なご意見もたくさんいただき、我々のエネルギーとなりました。来年度の研究発表に向けてますますパワーアップして、よりよい授業をめざしたいと思います。

## 20年度 特別支援教室すばるにおける実践研究の紹介

本教室では、発達障害のある幼児から中学生までの子どもたちに対して、個別指導を実施してきました。ここでは、様々な課題が浮かび上がり、その解決のために実践的な研究を積み重ねてきました。そこで今回、その実践的な研究の一端を紹介します。

「すばる」では、今までに活動の切り替えのためにタイマーを利用してきました。



(家庭用タイマー)は、残り時間がデジタル表示され、終了と共にベルが鳴るものです。幼児から小学校低学年の子は、指導担当者がタイマーを設定し、ベルが鳴ることで、終了の時間がきたことに気づくことができますが、楽しい活動を止めることに時間がかかっていました。小学校高学年から中学生では、指導担当者が時間設定するよりも、自分で時間設定をすることで、ベルが鳴ればスムーズに終了できる傾向がうかがえました。

(タイムタイマー)は、時間と共に赤色の半円の表示量が減少していくものです。幼児でも設定は簡単ですが、かえって途中で表示を変更しやすく、自分の都合のよいように変えてしまう傾向がありました。しかし、小学校高学年から中学生では、タイムタイマーの表示を自ら見て、活動を止められることもありました。



(タイムストラッカー)は、時間経過を3色の色と言葉(英語)で示し、幼児でも気づきやすくなっています。しかし、小学校高学年では、タイマーが幼稚な雰囲気があるために、使用に抵抗感がありました。また、中学生では、自分自身で設定することが難しく、使いにくいようでした。

そこで、本教室では、以上の結果をふまえ、教育学部の特別支援教育講座の先生方と技術教育講座の先生方の支援を受け、タイマーの試作に取りかかりました。その試作タイマーには、「①時間がデジタル表示される。②音が出る。③色で時間経過が表示される。④音声でも知らせられる。⑤少ない設定ボタンで操作しやすい。⑥小型軽量で持ち運びしやすい。」の機能を持たせることになりました。そして製作したものが、下の写真の(試作タイマー)です。

このタイマーを使って個別指導を実施したところ、幼児の場合は自分で試作タイマーを設定することは難しかったのですが、興味を持って注目していました。終了の音声をよく聴きスムーズに活動を止められました。小学生は、試作タイマーを自分で設定し、時間を自ら見ながら活動に取り組んだり、残り時間に応じて自己の活動を調整したりすることができ、時間通りに終了した時には、満足した様子でした。しかし、終了後も取り組みが少し続いてしまいました。中学生は、自分で試作タイマーを設定できましたが、使用場所が広い場所だったため、音が小さくて聞きづらく、効果は少ないようでした。今後は、以上の実践結果をふまえ、問題点を改善していき、効果的なタイマーの製作と利用方法について研究を深めていきたいと考えています。



## 幼稚園より

## 親子でミニ運動会

2月18日、保護者も参加してのミニ運動会が行われました。天候にも恵まれて、子どもたちもやる気満々です。

みんなで、準備体操やマラソンをした後、お家の人と一緒にリレーや玉入れなどを楽しみました。各クラス、それぞれ親子で触れあう楽しいプログラムが用意されていました。幼稚園最後のミニ運動会となった青組さんたちは、特に、競技にも応援にも力が入っていたようです。途中、プログラムにはなかった保護者対抗の綱引きがサプライズであったり、親子おんぶ騎馬戦もあって、保護者も、力いっぱい、そしてちょっぴりへとへとに？なりながら参加しました。

汗をかいた後は、園庭で、みんなでおやつをいただきました。子どもたちにもお家の人にもよい思い出になったのではないのでしょうか。笑顔いっぱいのミニ運動会でした。



## ミニうんどうかいプログラム

1. じゅんびたいそう…………… ラッキーチャンボンメン
2. きぐみ(おうちのひとと)…………… あったかおんぶ&けんけんリレー
3. あかぐみ(おうちのひとと)…………… サンドイッチたまはこび  
&トラックリレー
4. あおぐみ(おうちのひとと)…………… なわとびリレー
5. みんな(たてわりチーム)…………… たまいれ
6. ちいさなおともだち…………… おたのしみかけこ
7. あか・き・あお(クラスごと)…………… つなひき
8. あか・き・あお(クラスごと)…………… おやこでおんぶきばせん
9. みんな…………… みんなでおどろう

～たのしいおやつタイム～



## 小学校より

12月14日(日)に、お父さん方にお集まりいただき、学校メンテナンスとして以下の3つの作業を実施しました。

一つ目は、現状のなわとび用ジャンピングボードの台数が少なく老朽化していたので、新たに10台作成しました。二つ目は、教室内のロッカーの上が荷物であふれ、今にも窓から落ちそうで危険なので、全教室の南側の部分にロッカー棚を設置しました。三つ目に、体育館の内側と外側の2つの倉庫の大掃除も行いました。



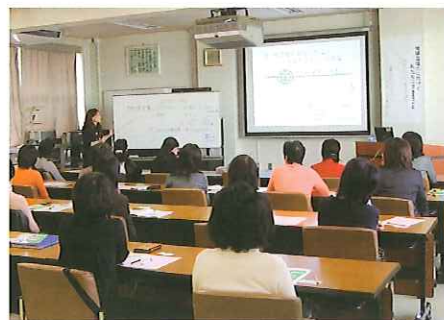
どの作業も力仕事や大工仕事が多く、参加していただいた33名のお父さん方大変お疲れ様でした。

翌日、小学校のブログを見ると、子どもたちもとても喜んでいるようでした。



## 中学校より.....

2月3日(火)に2年生の生徒・保護者を対象に修学旅行と高校入試の説明会がありました。屋久島のガイドさんのスライド上映と解説を受け、4月の旅行に向けて、心も体も準備万端。本年度から取り入れられた、自己推薦入試については、保護者のみなさんも熱心に耳を傾けていました。



2月14日には、「地球温暖化にむけて私たちにできること(家庭における省エコ講座)」と題して、玉田美登利先生をお迎えして講演会を開きました。講演を聞いて、それぞれの家庭で実践できるエコにさっそく取り組んでいこうという参加者の意気込みが感じられました。附属の保護者・生徒一人一人が自覚を持ってグローバルなものの考え方や、実践ができればいいと思いました。

## 特別支援学校より.....

### 親和会

#### 親和だよりについて



私たち附属特別支援学校では、親和会の文化部が中心となり、子どもたちの卒業文集とともに、家族の文集も製作しています。

学校生活は、人生の中でほんの少しの間でしかありませんが、その中で親しくさせていただいた保護者の、その時々のお気持ちが込められています。この文集は、これから先、子どもたちが社会に飛び立った後にこそ、読み返せるものだと思います。

“親和会だより=親輪家愛だより”  
機会があれば、ぜひ読んでみてください。

#### 水ぎょうざを作りました!

善通寺養護学校のPTA会長越智さんをお迎えして水ぎょうざ作りに挑戦しました。

具は豚肉のブロックを粗めにみじん切りすることから始まり、白菜やねぎなどをいれました。

そして皮も小麦粉で手作りしました。1つ1つ麺棒でのばす地道な作業でしたが、楽しくおしゃべりをしながら...

あっという間の時間でした。

そして大鍋でグツグツ...

ポン酢でいただくとても美味...。ぜひ家庭でも作ってくださいね。



防煙教室

毎年この時期に開かれている防煙教育が、3年生を対象に、3月4日に開催されました。講師に本校OBであり、木村内科・呼吸器科医院名誉院長の森田純二先生をお迎えし、映像を交えながら、たばこの害についてさまざまな角度からお話をいただきました。3年生からは「絶対にたばこは吸わない。」「たばこを吸っている大人に呼びかけたい。」という声が聞かれました。



送別芸能祭

3月12日(木)に送別芸能祭が体育館で開催されました。今年は1年生が「四通の手紙」、2年生が「山姥」と題した劇でした。監督や役者、大道具、小道具、衣装、照明、音響まですべて生徒による手作りの演劇に、3年生や保護者の方々からたくさんの拍手を頂きました。



中学校

火災想定避難訓練

2月4日、PTA安全委員の保護者の方々が見守るなか、火災想定避難訓練を行いました。不審者侵入想定(7月)、地震想定(9月)に引き続いて本年度3回目当たる今回も全員が真剣に黙って行動できました。前回の反省点「早く避難することは大切だが、段があるところは絶対に走らない」に気を付けながら、素早く体育館へ避難することができました。



縄跳び検定



毎年3学期には、東西対抗の縄跳び大会と個人到達目標を掲げた縄跳び検定に全校で取り組んでいます。縄跳び検定では、種目毎に合格シールをゲットしようと練習に励んでいます。体育委員会の人たちが、昼休みに体育館でチェックしてくれます。個人の頑張りは、縄跳び大会へとつながります。

小学校

特別支援学校



特別支援教育相談事業  
「やまもも教室」講演会

12月6日(土)「発達障害のある子どもへの支援」を演題として関西国際大学の 中尾繁樹先生をお迎えして講演会を実施しました。雪花の舞う寒い日でしたが、会場となった体育館は多数の先生や保護者の熱気に包まれていました。学習の前提となる子どもの「視線の動きや姿勢」に関して簡単にできるチェックの方法を実際の動作を交えて具体的に伝えていただいたり、支援の具体的なアドバイスをいただいたりして明日からの実践にすぐつながる有意義な講演会でした。

府中ボランティア「しあわせクラブ」の会長  
平田幸代さんを全校で表彰

本校が府中町に移転以来、障害者理解に努めてきたとき、地域との交流もちつき大会やふれあい祭りのお手伝いを率先してくださった功績が認められ、小さな親切運動実行賞を受賞されました。12月10日の全校集会でお招きして、感謝の心を伝えて、お祝いをしました。

第19回香川県駅伝競走大会で、  
男子準優勝に輝く



幼稚園

お正月あそび、楽しいよ

1月は、いろいろなお正月遊びを楽しみました。いくつか紹介します。

黄組は、ひねりごま。手で回すのが難しい。でも、一人がすると、ばくも、私もと、輪ができてきます。いつのまにか、青組さんもやって来て、一緒に遊んでくれたり、教えてくれたりしましたね。



「今度はわたしがよむよ」  
「㊦ひるのラジオ いつも ガーガー」  
(どうぶつことはあそびかるたより)  
…たどたどしく読み札を読むときもある赤組さん。でも、大丈夫です。子どもたちは、じっと聞いて、カルタをとっていきます。真剣勝負の様子がわかりますか？



青組は、和風のたこ作りに挑戦。書き初めを取り入れて、模様は、習字で名前を書きました。なかなかの出来映えです。よく飛んで、大満足。園庭を元気にかけまわったたこ揚げを楽しみました。そんな青組の様子に、黄組や赤組も触発されて、たこ揚げをはじめましたね。

編集後記

桜の花が満開だった4月から、もう1年が過ぎました。秋にも見事な紅葉を見せてくれ、私たちを楽しませてくれた桜ですが、今、すでにもう蕾が膨らんできています。新しい春を迎え、また、花を咲かせようとしているのですね。

この1年、子どもたちは大きく成長しました。きっと、来年度も、一人一人がそれぞれに新しい花を咲かせてくれることでしょう。

今後とも、子どもたちの成長を確かに支えていけるよう、附属坂出学園が一人丸となって力を尽くしていきたいと思っております。どうぞ、今後とも、皆様方のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

発行年月日：2009年3月18日

発行事務局：附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

横山 新二 三宅 永哲 (附属坂出小学校)

環 修 木谷 直充 (附属坂出中学校)

武田 光弘 檜尾由美子 (附属特別支援学校)